

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 61 号

発行日

2025.10. 15

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○「may be」が、飛んでもない事態!!

先日、「line」上のやり取りで、飛んでもない事態（笑話？）が発生した！私の発信で、「may be」を使っただが、思わぬ展開となったのだ！実は、これは、私が、唯一「ライングループ」に入っている家族5人でのやり取りの「コマである」が、長女達（40代）が、「キムタク」を出してきたのである！私には、何のことかさっぱり分からなかったが、後で判明したのは、それが、彼女らが少女時代に観た（私も一緒に観ていた）テレビドラマの「口癖（決めゼリフ）」であったということである（もちろん私は、それ自体は忘れていた）！

なお、そのドラマとは、木村拓哉演じるアイスホッケー選手…と、竹内結子演じるOL…による恋愛を主題とした作品『「プライド」で、「氷上の格闘技」と言われるほど過酷なアイスホッケーという競技にもスポットライトが当てられた、いわばスポ根（…）ラブストーリー』で、「月9ドラマでは歴代2位の…平均視聴率を叩き出し、当時日本では人気の低かったアイスホッケーの普及にも大きく貢献した」ともあった。また、「ロックバンド『Queen』の楽曲が作中で多く使用されたことから、同バンドの日本での人気再燃のきっかけにもなるなど、多方面で話題を読んだ」ともあった。

要は、作中でキムタク…が、「メイビー」という言葉を用することでもおなじみだった」のであるが（やがて仮初の恋人だった…への思いが、「メイビー」から「マストビー（must be）」へと変わっていく…の心境の変化も、この作品の魅力の一つ）、この英語が、「本作の根幹を形成する重要なキーワード」だったのである！娘達は、今でも、この言葉を覚えていたということであるが、何とも言えない「懐古？」であった！

○改めて「実感」された、これからの「ヴィジョン」!!

そんな中、たまたま、あるテレビ番組の再放送分を観た！「東海ドまんなか！『都会から地方へ！つながりが生むイノベーション』という番組であったが（NHKG、とても興味深いもので、これからの人々（市民／庶民）の生き方、地域社会のあり方を、さりげなく示すものでもあった！）これまでも、それと似たような取り組みは、個別には、多々見た（聞いた）ような気がするが、何故か、今回は、それらが、これからの「ヴィジョン」を指し示すものとして、改めて実感されたということである！

例えば、「あなたには、第2のふるさとやお気に入りの地域がありますか？」というところで、「今、観光以上・移住未満で地域や住民と関わる『関係人口』に注目が集まっている。親子での地方留学や、旅とお手伝いを兼ねた地方滞在など、地域と新たな接点を持つサービスも大人気。岐阜県飛騨市では、地域のファンを増やす取り組みで、のべ5千人が産業や行事の“助っ人”に。人口が減る町の担い手としても期待されている。都会と地方、新たなつながりの可能性とは？」ということであったが、「諦め」や「無力感」が漂っている現代社会（日本）における、一つの打開策なのではないかということである!! 少子高齢化や過疎化の進行に伴う「定住人口」の減少／不均衡がもたらす弊害や危機（限界あるいは消滅集落）の中、「交流人口」の増大化が叫ばれてきたが、今回のような「関係人口」の発見は、新たな可能性を有しているということであるが、ここでもまた、そこには、確かに「思いのある人達」がいるということでもあった！

○初の女性首相誕生!!ただ、「人事」が彼女の想いを惑わす!!

こんな形で、我が国初の女性首相誕生？のことを書くことは考えてもいなかったが、勝手に自分の過去に託をかけて（笑？、これから生じるであろう？、彼女の苦悩について記しておきたい！要は、いかなる思い、事情があるにしても、トツプ（リーダー）になれば、自らの意思や好み？だけでは、いわゆる「人事」がうまく進まないということである（既に、その兆候が見始めている？）！私の狭い（否、ちっぽけな？）経験からしても、そのトツプ（リーダー）の座は、自らの思いと努力で（決して才能ではない！）勝ち得たものでも、それが実現したのは、残念ながら？多くの利害得失のバランス？の上でのものであつて、決して自分だけの力ではない（たとえ、そう自負していたとしても？）！とりわけ、「政治」の世界では、そこでの虚実が甚だしいということでもある！

しかるに、それは、往々にして後から気づくものでもあるが（ビュアな、否、無垢な人間にはそう？、そこでのしがらみや重圧は、徐々に強くなつていく？運営や施策それ自体がうまくいっている場合はそうではないが、一度問題や懸念事項が発覚すると、そうした関係が、剥き出しとなつていく！いわゆる、「トツプ（リーダー）の孤独」と呼ばれる事態が、そうなのであるが、そこに、本当の意味での「同志」や「仲間」がいなければ、途轍もない苦悩（地獄？）が待ち受けている！そういうことである！現在、新たな展開が始まっているようでもあるが、トツプ（リーダー）は、そこを、何とか突破していかなければならないのである!!

何とも可哀そうではあるが、それが現実なのだから、ある意味どうしようもない！ただし、私は、彼女や、彼女が所属している政党のファンでもなければ、支持者でもない（基本的に、既成政党に興味はない！そもそも政治の世界が嫌いである？）！だから、その推移を、傍から（遠くから？、淡々と眺めていくことになる！）だが、不気味なのは、そうした混乱を、どこかでほくそ笑んでいる国があるかもしれないということである？！これ以上のことは書きたくないが、しかし、そうした混乱（政争）を傍目に、来るべき未来と自らの生活基盤をしっかりと見据えて、頑張っている人達が、一方で、無数にいることを忘れてはいけない！（井上）

○これなのだ！今、必要なのは、こうした協働なのだ！

またしても、テレビ、しかも、毎度の？「新プロジェクトX」挑戦者たち」からの話題となるが、今回の内容はとりわけ凄かった！「100年に1度」と言われる渋谷駅・大規模工事の舞台裏に迫る！東急・JR東日本・東京メトロの担当者が明かす、知られざるエピソードも！ということであつた（9月13日（土）総合・拡大版）！そして、皮肉ではないが、まさに今の多くの？政治家に見てもらいたいと思つた。果たして、それは、何故か？

しかるに、番組の見どころは、「最先端の街にも関わらずバリアフリーは不十分で乗り換えも複雑、『迷宮』と呼ばれてきた渋谷駅。それを根本から生まれ変わらせるため、東急・JR東日本・東京メトロの3社が立ち上がった。100年に1度と言われる大規模工事は難題の連続。4社9つの鉄道路線が乗り入れ、1日に280万人が利用する巨大ターミナルの工事は一筋縄ではいかない。圧倒的に正確なダイヤと安全性を世界に誇るのが日本の鉄道。定時運行を守りながらいつどのように作業するのか。現場に重機を入れるのも、資材置き場を確保するのも大変。」

そこで、今回、深夜の工事現場を取材：ダイヤに影響を与えないように、終電のあと始発が再び走り出すまでという限られた条件のもと、1分1秒を惜しんで作業にあたるプロフェッショナルたちの姿を目のあたりに：日常の足はこうして守られているのかと感激…。スタジオには鉄道3社から工事の担当者がそろい踏み：本来はライバルで、利害も思惑もことなるはずの鉄道マンたちがなぜ心をひとつにして難工事を進めることができたのか、知られざるエピソード：とあつた（MC2人のコメントより）！

要は、大きな課題を共有し、その解決に、一致団結し、思いと力を寄せ合つたというところ、そこが凄いということである！「渋谷駅の大改修は現在も進行中。ホームの壁1枚隔てた空間できょうも汗を流して活躍する鉄道マンたちに感謝したくなること請け合い」と結んでいる！

○基礎（科学）と応用（科学）のコラボの必要性！

今年も、例のノーベル賞の授賞者に、二人の日本人科学者が選出された！最近は、かなりの人達が受賞されているので、さほど驚きもしないし、名前も、ほとんど覚えることもない！受賞者には大変失礼であるが、そうなのだから仕方がない！その分野での卓越した業績や貢献があつたことは、分かる人には分かるのであるが、一般人にはほとんど分からない？後から、その凄さが知らされるわけであるが、そこで思うことは、その意義（普遍的価値と有用性）が、十分考慮されているということである！！

それは、「基礎（科学）」の重要性和、その「実用／応用」への発展性が、同時に示されているということであるが、換言すれば、そのコラボの必要性ということでもある！！だが、我が国の受賞者達が、異口同音に発する「基礎（科学）」の危機？は、いつも気になるところではある（何とかならないものなのか？！余談だが、ある賞を欲しがっている人物もいるようであるが、当然ながら、貰いたくて貰えるような代物ではない！そのことだけは、歴然としている！）

＜短歌に託して～やつと本格的な「物想う秋」？＞

・こんな英語が 飛んでもないことに！！
思わぬ懐古？ そして何故かほつこり！

・改めて「実感」された これからのヴィジョン！！
実は多々ある！ そしてそこに人ある！

・同志や仲間？ 上に行けばいくほど
見えにくくなる？ そして、厄介にも？

・こんな人達がいるのだ！ 政治家達よ！
あなた達の初志も 実はそうだったはず！！
基礎と応用（実用） これがいかにか結びつくかである！
だがやはり 基礎があつてのそれである！

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕61＞

○突然だが、「こ」で「高天原神話」を探る？！その1ー
ところで、真に突然であるが、ここから少し趣を変えて、かの「高天原神話」のことについて、敢えてさらなる暴走（ならぬ妄想）を試みることにしたい！何故なら、「記紀」に記されている神話が、単なる空想上の絵空事（ファンタジー）ではなく、ある史実、諸氏族の伝承を下にした、作家的な歴史物語であることは間違いない（純粋な神話／文学ファンには、大変申し訳ないが）、しかも、その暗喩部分を冷静に手繰り寄せていけば、本当のことが分かるのではないかということである（ひょっとしたら、記紀の編纂者は、そのことを期待していたのかもしれない？つまり、動機／構成は見えてあるということである）！ちなみに、これは、何の付度も要らない、一市井人としての、私の思考実験でもある！

まあ、そうは言つても、すべてが仮説（自分なりの納得ということである）の上に成り立っていることは、言うまでもないことであるが、「こ」に来て、それが可能なのではないかという感触が得られたということでもある！すなわち、その感触とは、かの記紀神話（もろろん、全体も言ひが！）のモチーフが、藤原・持統政権の「正当性」「正統性」の創出・流布にあるのであれば、「神話」は、絶対にそれを導くように創られているということであり、それが、何とか説明できるのではないかということである！！

ということで、これからしばらくは、それを披歴していきたいわけであるが、まずは、「天武」の正妃？であつた「持統」（天智の娘でもある）が「天照大神」に、その「天照大神」の傍にいて（上にいて）、重要な決定をなしている「高皇產靈神」が「藤原不比等」に昇華されていることはある意味では「見え見え」なのである（これについては、多くの人が指摘している）！！そして、皇子の「天押穗耳（あまのほみみ）命（みこと）皇（みま）子（こ）」の子「瓊瓊杵尊（にぎはぎ）尊（みこと）皇（みま）子（こ）」の天孫降臨（あまの孫の降臨）の部分だけをみても、そのことははっきりしている！ただし、これは、天皇位や皇統に対する誹謗中傷などでは毛頭ない（それが事実であれば、そう受け止めるだけである）！！そのことは、念押ししておく！（つづく）

（堂本）
【編集後記】やつと「物想う秋」になつたようにも思うが、まだまだ沖縄は暑い！続けて台風が襲われたところがあるが、めげずに頑張つて欲しい！問題は、かの人達である！単なる数合わせの愚策だけは、絶対に避けて欲しい！（井上／堂本）